

労働図書館新着情報

今月の10冊(日本十進分類[NDC]順に掲載)

<p>①大瀧雅之著『平成不況の本質』岩波書店(iv+185+3頁,新書判) プラザ合意以降をバブル期、失われた10年、構造改革期に分け、失業率の年次データ等をもとに、平成不況の本質(著者は、デフレではなくディスインフレ説を主張)を理論的に追究。公正な所得分配と反グローバル化の視点から、失業率の継続的上昇と対外直接投資の拡大を問題視。日銀の独立性、建設業の軽視等も警告。</p>	<p>⑥松井亮輔他編著『障害者の福祉的就労の現状と展望』中央法規出版(356頁,A5判) 「福祉的就労分野における労働法適用に関する研究会」の報告書「国際的な動向を踏まえた福祉と雇用の積極的融合」に最新の文献、資料、データを追加した著書。欧米諸国の現状紹介と日本の障害者就労問題の現状と課題分析の二部構成。障害者総合福祉法が検討されているが、就労状況の改善も、本法の重要課題の一つである。</p>
<p>②アケンチュア経営コンサルティング本部人材・組織マネジメントグループ著『グローバル組織・人材マネジメント』東洋経済新報社(214頁,A5判) 先行き不透明感を増している世界経済の浮沈は、新興国の業績如何にかかっているといっても過言ではない。本書は、新興国での採用・育成・戦力化・カルチャー統合のための、世界的経営コンサルティング企業アケンチュアが開発したツールを紹介。客観化されたマニュアルに基づき、事業進出・定着方法が詳述されている。</p>	<p>⑦森岡孝二著『就職とは何か』岩波書店(xii+217+4頁,新書判) 教職歴40年を越す著者は、現在が最も就職環境が悪化しているという。本書は、学生の就職活動の状況と雇用現場の実情を紹介、就職とは何か、どのように働くべきかも考察。まともな働き方のためには、賃金、労働時間、雇用、社会保障の4つもまともであることが必要と主張。ワーキングアウティングを解決の糸口として提案している。</p>
<p>③雇用のあり方研究会他編著『ディーセント・ワークと新福祉国家構想』旬報社(229頁,A5判) 全労連の委嘱を受けて、2010-11年開催の「雇用の安定を軸とする「セーフティネット」のあり方研究会」の成果。働きがいのある、人間らしい労働と、住宅・教育・医療保障の新福祉国家的施策の実現方法を13人のメンバーが、研究会方式により学際的に検討。労働政策と生活保障の連携とともに、内需中心の循環型経済を提言している。</p>	<p>⑧第一東京弁護士会労働法制委員会編『個人請負の労働者性の問題』労働調査会(341頁,A5判) 製造業派遣の全面禁止を盛り込んだ派遣法改正案の影響もあり、アウトソーシングの方法が派遣から請負・委託にシフトしているが、昨4月の最高裁二判決は、個人自営業者とみなされていた就業者を労組法上の労働者と認定。夏季合宿研修の成果である本書は、この判決を含む4つの事件を分析、企業側の対応策を検討している。</p>
<p>④大内伸哉著『君は雇用社会を生き延びられるか』明石書店(307頁,B6判) 刺激的なタイトルであるが、グローバル競争がもたらす過労社会の中で、労働人生を心身とも健康に生き通すことは経験上難しい。過労や人間関係に起因する労働災害への対処方法を労災補償保険法等労働法を踏まえ物語的に説明。専門的でないにもくいと敬遠される職場の安全衛生を理解しやすくする工夫が施されている。</p>	<p>⑨仁平典宏他編『ケア・協働・アンペイドワーク』大月書店(283頁,B6判) 雇用と自営の区分けが不明化するとともに、賃労働と無償労働の境界も曖昧化。本書は、家事労働、ケア労働等の再生産労働を軸にのせ、無償・有償の輪郭が融解しつつある現状を描出。無償労働が賃労働化し、賃労働であるべきものが搾取の対象となるなど、労働の現場も変転目まぐるしい。「労働再審」シリーズ第五巻である。</p>
<p>⑤大嶋寧子著『不安家族』日本経済新聞出版社(399頁,B6判) 雇用機会の縮小や賃金・雇用の不安定化から、正社員であっても家族の生活基盤に不安をもつものが増えている。著者は先行研究を渉猟するとともに、EU諸国の政策も参考に、不安を抱える家族を分析。内需活性化政策による安定雇用の確保や能力開発制度の見直し、多様な正社員の推進等、現役世代の社会保障の強化を提言。</p>	<p>⑩林陽子編著『女性差別撤廃条約と私たち』信山社(181頁,B6判) 4人の女性弁護士による性別に関する啓蒙書。日々の弁護士実務の中で直面している、育児休業、DV、性と生殖、性暴力などの事象を、女性差別撤廃条約の観点から紹介。開発・平和の視点を取りこむとともに、性別役割分業思想が法律や制度に秘かに侵入していることを指摘。ジェンダー・センシティブの重要性を説いている。</p>

主な受け入れ図書

(2012年1月労働図書館受け入れ)

①太田肇著『公務員革命』筑摩書房(200頁,新書判)	⑫木村大樹著『派遣と請負に関する行政指導と企業の対応』経営書院(v+306頁,A5判)
②仲尾宏著『朝鮮通信使と京都』世界人権問題研究センター(v+319頁,A5判)	⑬佐藤元一著『泣きたくないなら労働法』光文社(205頁,新書判)
③大串博行著『日本社会の外国人』パレード(118頁,A5判)	⑭連合総合生活開発研究所編『第二のセーフティネットの活用実態と利用者の声』連合総研(ix+192頁,B5判)
④御上尚資著『変化の時代、変わる力』日本経済新聞出版社(291頁,B6判)	⑮OECD編著『世界の若者と雇用』明石書店(246頁,A5判)
⑤加藤茂夫他著『良い経営者 できる管理職 育つ社員』白桃書房(127頁,A5判)	⑯国際労働機関編著『1つの危機から次の危機へ?』一灯舎(viii+159頁,B6判)
⑥齊藤徹著『ソーシャルシフト』日本経済新聞出版社(359頁,B6判)	⑰労働総研中小企業問題研究部会編著『中小企業の未来を拓く』学習の友社(141頁,A5判)
⑦日本経済新聞社編『企業・生存の条件』日本経済新聞出版社(251頁,B6判)	⑱岡野孝信編著『なかと共に』本の泉社(287頁,A5判)
⑧中小企業研究センター編『中小企業の海外展開』中小企業研究センター(132頁,A4判)	⑲石寄信憲編著『個別労働紛争解決の法律実務』中央経済社(540頁,A5判)
⑨リチャード・N.ラングロウ著『消えゆく手』慶應義塾大学出版会(xiii+192頁,A5判)	⑳山口毅著『あなたは労働者か事業者か』労働調査会(239頁,A5判)
⑩藤本篤志著『社畜のススメ』新潮社(191頁,新書判)	㉑石田秀輝他著『未来の働き方をデザインしよう』日刊工業新聞社(215頁,B6判)
⑪ジェフリー・フェーファー著『人材を活かす企業』翔泳社(xviii+288頁,B6判)	㉒辻村みよ子他編『男女共同参画のために』東北大学出版会(553頁,A5判)
⑫浅井隆著『問題社員・余剰人員への法的実務対応』日本法令(220頁,A5判)	㉓全労済協会編『地域福祉を支える寄附の仕組みに関する研究』全労済協会(83頁,A4判)
⑬沢村凜著『ディーセント・ワーク・ガーディアン』双葉社(364頁,B6判)	㉔田宮寛之著『就活は3年生からでは遅すぎる!』東洋経済新報社(215頁,B6判)
⑭連合総合生活開発研究所編『パート労働法改正の効果と影響に関する調査研究報告書』連合総研(153頁,A4判)	⑮高木俊之編著『エレベーター産業と中小企業』下田出版(110頁,B6判)

労働図書館作成の「労働文献目録」について

当館では、毎月、収集した図書館資料(報告書、雑誌、紀要等)に基づき、「労働文献目録」を作成し、当機構のホームページに掲載しています。本目録は、当機構独自の分類により、労働研究に資すると思われる文献を採録したものです。
「労働文献目録」のURL <http://www.jil.go.jp/lib/bunken/index.html>
(図書については、当機構ホームページの「新着図書」 [URL http://lib2.jil.go.jp/cgi-bin/opc/nbk/onbk_date] をご覧ください)

労働図書館(資料センター)

当図書館は、社会科学関係書を中心に和書108,000冊、洋書27,000冊、和洋の製本雑誌21,000冊を所蔵している日本有数の労働関係の専門図書館です。

労働関係の分野には、労働法、労働経済、労働運動、雇用職業、女性労働、パート派遣、高齢者労働、障害者労働、外国人労働、社会福祉などがあり、これらで、蔵書の半数以上を占めています。その他にも、経済書をはじめ経営学、心理学、教育学、社会学など関係分野に及んでいます。また、和雑誌(460種)、洋雑誌(170種)、紀要(560種)、組合機関誌・紙を受け入れています。

特色としては、厚生労働省をはじめとする官公庁発行の統計類などの逐次刊行物、日本経団連など経営者団体の刊行物や民間研究機関刊行物、社史があり、労働組合に関しては、労働運動史、ナショナルセンターや産業別組合の大会資料などを継続的に収集しています。洋書については、特にILO(国際労働機関)総会の議事録やOECD(経済協力開発機構)の刊行物、各国政府の労働統計書などを収集して閲覧に供しています。特殊コレクションとしては、戦前・戦後を通して歴史的に貴重な労働組合の原資料を収集、提供しています。

所在地: 東京都練馬区上石神井 4-8-23
開館時間: 9:30 ~ 17:00
休館日: 土曜日、日曜日、国民の祝日、年末年始(12月28日~1月4日)、その他
電話番号: 03(5991)5032 / FAX: 03(5991)5659
利用資格: どなたでも自由に利用できます
貸出: 和書・洋書とも2週間、5冊までです
※身分証明書(運転免許証、健康保険証など)をお持ちください
レファレンス・サービス: 図書資料の所在調査などのサービスを行っています